

第6回 東井義雄賞「いのちのことば」の入賞作品発表会・記念講演会を開催しました



▲東井義雄賞の入賞作品を披露する受賞者〔出席者2人・濱野卓也さん(左)と牧瀬 隆さん(右)〕

2月28日、第6回 東井義雄賞「いのちのことば」入賞作品発表会・記念講演会を但東町出合の但東市民センターホールで開催しました。

この賞は、いのちの教育を探求し続けた日本を代表する教育者・東井義雄さん（但東町佐々木出身）の遺徳を顕彰し、その理念を後世に伝えるために創設したものです。

今回は、「私にとって忘れられない家族のあの一言」をテーマに募集したところ、全国各地から721編の作品を応募いただきました。

発表会当日は、最優秀作品の東井義雄賞5編を含む入賞作品100編（秀作10編、特別賞10編、佳作75編）を発表し、対象者に中貝市長から賞状や記念品などを贈りました。

また、式典終了後には、記念講演会として、選考委員・岡山大学教育学部教授の菅原 稔さんに『いま東井義雄先生が語りかけるもの～「村」と「いのち」と教育と～』と題し、講演いただきました。

《問合せ》教育委員会但東分室 ☎21-9036

私たちが当たり前に生活しているこの村を、どれだけ目を向けて大切にすべき存在として見ているでしょうか。せつかくきれいな川があるのです。その川に改めて目を向け、改めて耳を傾けてみましょう。東井さんは「確かに都会には但馬地域に無いものがある。けれど、都会には無くて但馬地域にあるものがたくさんあるんだ。あるものがあるものとしての働きを持つていないこと、あるものに目を向けていないこと、どうせあっても仕方がないという目でしか見ない私たちの生き方の問題だ」ということをよく



▲いのちの教育について、熱く語る菅原 稔さん

記念講演

『いま東井義雄先生が語りかけるもの』

～「村」と「いのち」と教育と～

選考委員・岡山大学教育学部教授 菅原 稔さん

言われました。

私たちは、生活の中でいろいろな素晴らしい言葉を聞いています。受賞された言葉が素晴らしいかったというよりも、その言葉を受け止め、記憶し書き留めて保存した、その努力が素晴らしいのです。言葉を語られた方が賞を受けたのではなく、その言葉を受け止めたあなたが賞を受けられたのです。

当時、東井さんによく悩みを相談しました。すると、東井さんは「そうなるようにあなたが努力しなさい」と言われました。また、私が好きな東井さんの言葉に「太陽は夜が明けるのを待つて昇るのではない。太陽が昇るから夜が明けるのだ」があります。この言葉を思い出すたびに、自分が何ごとに対しても明るく向かっていこうと思います。自分の命を大切にし、こういう教育をしていきたいです。

「私にとって忘れられない家族のあの一言」

東井義雄賞（5編）

ないものを数えないで、あるものに感謝した方が幸せ。私がい
て、息子がいて、元気な自分が
いる。ほら、笑えるでしょ。

牧瀬 隆さん（鹿児島県始良郡始良町・

43歳）

〈ことばを受けたときの状況〉

私が仕事でつまずき、「能力がない」「時
間がない」「お金がない」「夢がない」と
家で落ち込んでいたときに、妻がこう励
ましてくれました。口数の少ない、頼り
ない妻ですが、そのときほど、大きく見
えたことはありません。私にとっては、
出来過ぎたパートナーです。

これからは、妻、息子と共に、「あるも
の」に感謝しながら、前向き
に生きていこうと決意をさせ
てくれた、そんな一言です。



郷土を愛しなさい。郷土を語れ
ない者に日本史を語る資格なし。

上原 一郎さん（岡山県岡山市・68歳）

〈ことばを受けたときの状況〉

私が小学5年生のとき、教師から「自
分の生まれ育った郷土を知りなさい。そ
して郷土史を知らずして日本史や世界史
は語れない」と言われた。

基礎工事をしつかりした家は、
何十年住んでも安心できる。人
間関係の基礎を築く努力を惜し
まなければ、人の信頼を得る事
が出来る。

小田慶喜さん（明石市・52歳）

〈ことばを受けたときの状況〉

大工であった亡き父が、いつも教えて
くれた言葉である。家造りは、まずしつ
かりとした基礎を打つことが重要であり、
基礎工事への投資を避けて、外観にばかり
凝るような注文主の仕事を請け負わな
かった。おそらく父の経験から得た教訓
だと思う。職人氣質の父は、注文主と喧
嘩をすることも多く、自分の仕事に妥協
することはなかった。その代わり父の建
てた家は、何十年経っても少しの直しで
住み続けることができ、今も多くの家が
残っている。

小さい時から私には、厳しく学校教育
の基礎を繰り返し返すことを求めた。そして、
信頼できる友達をつくることに努力を惜
しむなど話した。人
の信頼を得るには、
人の基礎づくりに努
力することが重要だ
と思う。

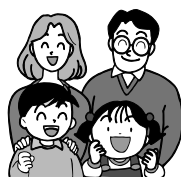


握り拳はこうするんだよ。四本
の指を先に寝かせてその上に親
指をかぶせるんだよ。四本の指
は子どもで親が子どもを守るん
だよ。

相澤礼子さん（群馬県太田市・76歳）

〈ことばを受けたときの状況〉

私が小1の時に火災に
あった。強風の夜であつ
た。間に4軒延焼して
しまい、その地獄絵の火
の中で母は死んでしまお
うと姉に言った。姉は嫌
だと叫んだ。その声に母
はつらい道をゆく決心をする。昭和15年
という大戦前の世情、物資も逼迫し、不
穏な時代であつた。



「いいか、握り拳はこうしてつくるんだ
よ。4本の指を先に折ってその上に親指
を乗せるんだよ。4本の指は子どもで、
親指で子どもを守るんだよ。こうすれば
何倍もの力が入るんだよ。
家族で一致団結して頑
張って生きていこう」と
この母の言葉を合言葉に
生きてきました。今でも
この言葉を大切に兄妹仲
良く生きています。



怠けるという事の痛さを知るの
は、今のお前では無く、未来の
お前だぞ。

濱野卓也さん（大阪府泉大津市・17歳）

〈ことばを受けたときの状況〉

この言葉は私が高校受験のときに祖父
に言われた言葉です。当時、私は勉強を
全くせず遊んでばかりいました。普段か
ら無口な祖父は、私に何も言いませんで
したが、さすがに遊びすぎている私を部
屋に呼び、この言葉を言いました。それ
だけを言うと、部屋から出て行きました。
私は普段からあまり話さない祖父から言
われたこの言葉が忘れられません。

私はその後、この言葉について考えま
した。未来の私は、今の私をどう思うだ
ろうか、人生を決めるかもしれない高校
受験をサボることで、未来の自分がその
報いを受けるかもしれない。未来の私は、
きつとあのころの怠惰を反省するだろう。
でも、反省しても遅いのである。だから、
今、しなければならぬことをしろ。祖
父はそう言いたかったのかもしれない。
それ以来、私は遊びを控え、見事高校
に合格しました。今でも何
か物事から逃げたいとき、
私はこの言葉を思い出して
頑張っています。



入賞作品100編は、書籍にまとめ、1冊600円で販売しています。希
望の方は、東井義雄記念館（☎21-9036）へ申し込みください。